

地震火山子どもサマースクーラー3年間の成果と問題点
 小山真人 (静岡大教育)・中川和之 (時事通信)

First three years of Schoolchildren's Summer Course in Seismology and Volcanology
 Masato KOYAMA (Shizuoka Univ.) and Kazuyuki NAKAGAWA (Jiji Press)

過去3年間の学会主催の児童生徒対象普及行事を振り返り、成果と問題点を、主催者の立場を離れてレビューする。この行事の根本理念は、1) 研究の最前線にいる専門家が子どもの視点にまで下りて、地震・火山現象のしくみ・本質を直接語る、2) 災害だけでなく、災害と不可分の関係にある自然の恵みを伝える、の2つである(たとえば、桑原, 1999, 科学)。その他の特徴(課題を与えて考えさせる、チーム対抗ゲーム形式、情報の一方通行でなく対話を保つ等)は、子どもの好奇心を刺激しつつ理念を実現するために培った手段である。理念1)は、ともすれば形式主義・権威主義や誤解、不当な省略等が入り込みやすい学習指導

要領や教育現場をバイパスする意味をもち、理念2)は、自然の負の面だけへの対決姿勢を強要し、自然理解や共生の視点を欠いた従来の防災教育の不完全性と限界に対するアンチテーゼとしての意味と役割を担ったと評価できる。参加者へのアンケート結果も上々である(佐藤ほか, 2000, 2002, 合同学会予稿集)。しかし、これらの特徴をもつ行事の準備には当然のことながら時間と労力が必要であり、理念をよく理解し熟練した少数のスタッフか、バス1台程度の参加者を相手にした時に初めて実現できる方式でもある。以上の実状をよく理解せずに安易に募集人数を増やせば、破綻するかスタッフに過重労働を課すことになるのは当然である。当面は、少しずつ理解の輪を広げること、特定の人間の職人芸に頼らずとも実施可能とする実行組織の常設やマニュアルの整備等が望まれる。なお、予算の裏づけがあったとしても、参加者から実費を徴収することは健全な収支決算の基本であり、信用を得る結果につながる点も忘れてはならない。

年月日	名称	主催(協力)	後援	協賛・助成	会場	日数	参加費	参加者	実行委員・スタッフ	野外見学	実験(担当者)	講義(講師)	その他イベント
第1回 1999 8.20-21	地震火山 子ども サマー スクール 「丹那断 層のひみ つ」	日本地震学会 函南町 函南町教委	静岡県 静岡県教委 函南町 函南町教委		函南町農村 環境改善セ ンター、函 南町中央公 民館	日帰り×2 (2日目は シシホの み)	2500円 (資料代、 実験材料 費、保険 料、昼食) 主として地元と近 隣の小学生(1日 目)は、 会場までの 交通費は参 加者負担	バス1台 5チーム 主として地元と近 隣の小学生(1日 目)は、 会場までの 交通費は参 加者負担	小山真人(委員長)、桑原英治、山崎晴雄、中川和之、岡本義雄、数越達也、中丸明子、早川由紀夫、山岡耕春、相原延光(以上委員)、武村雅之、青島晃、宮嶋衛次、川端信正、函南町教育委員会社会教育課(以上現地スタッフ)	断層地形・火山 地形遠望(伊豆 スカイライン) 岳荘(車場) 丹那断層公園で のすれ観察	小麦粉マダマ流 実験(相原) ペットボトル液 状化実験(中 丸)	強震動(武村)、地震 と活断層(山崎)、火 山(小山)についての 講義(1日目) 活断層(山崎)、地震 (山岡)、火山(小 山)についての講演 (2日目)	開講式 自己紹介ゲーム チーム対抗カード集め 参加者および講師代表 によるパネルディス カッション 記念写真 認定証授与式
第2回 2000 8.26-27	地震火山 子ども サマー スクール 「有珠山 クオッツ ンガ」	日本地震学会 日本火山学会	土屋生輝福祉 基金		壮瞥町公民 館(1日 目)、虻田 小学校(2 日目)	日帰り×2 (1日目と 2日目で参 加者入れ替 え)	無料(会場 までの交通 費は参加者 負担)	バス1台 7チーム(1日目) 5チーム(2日目) 主として地元の 小学生(1日目) 40人(1日目) 19人(2日目)	高橋正樹(委員長)、宇井忠英、岡田弘、桑原英治、数越達也、宮嶋衛次、三松三朗(以上委員)、相原延光、岡本義雄、小山真人、佐藤明子、中川和之、本間宏樹、伊藤晋(以上現地スタッフ)	有珠山遠望(サ イロ展望台、珍 小島)	小麦粉マダマ流 実験(宮嶋) 軽石・火山灰肉 眼観察(相原) 火山灰顕微鏡観 察(相原)	火山とマダマ(高 橋)、噴火様式と堆積 物(小山)、昭和新山 と三松正男(三松)、 火山の恵みと災害(岡 田、宇井、三松)	開講式 自己紹介ゲーム チーム対抗カード集め 参加者および講師代表 によるパネルディス カッション 記念写真 認定証授与式
第3回 2001 7.20-22	2001地 震火山世 界子ども サミット	日本地震学会 (キユーニ ケーションズ (株)、日本火 山学会)	内閣府 総務省消防庁 文部科学省 東京都 東京都大島町	財団法人車面 競技公益資金 記念財団、国 際ロータリー 全日本ロータ リークラブ、 (株)キユー ニケーション ズ	大島町開発 総合セン ター、伊豆 大島セミ ナーハウ ス、都立大 島高校	2泊3日	無料(熱海 港・東京港 までの交通 費のみ参加 者負担)	バス4台 20チーム 小5～高3 163名 伊豆七島を中心と 近隣の地震・火山災 害の被災地域の児 童が中心、海外か らも6名参加	入倉孝次郎(委員長)、小川雄二郎、片山恒雄、廣井脩、藤井静男(以上委員)、桑原英治、村上智子、中川和之、伊藤和明、渡辺秀文、高橋正樹、小山真人、平田直、川邊桂久、山崎晴雄、山岡耕春、武村雅之、橋本学、安井真也、数越達也、佐藤明子、前田哲一、中島健、南島正重、荒井賢一、小村隆史、大島町役場総務課防災係(以上現地スタッフ)	地層大切断面、 波浮岩、筆島、 温泉ホテル露頭 出実験(宮嶋) セリヤ岩脈形成 実験(相原) ハンデアイーGP S宝探し(橋 本、山岡)	活断層(山崎)、強震 動(武村)、伊豆大島 火山(小山、川邊、山 岡、橋本、高橋)	開講式 自己紹介ゲーム チーム対抗カード集め 参加者および講師代表 によるパネルディス カッション(インター ネット中継つき) サミット宣言 認定証授与式	